2013年3月期
経営方針説明会

2012年4月27日
株式会社エンプラス

代表取締役社長
横田　大輔

本日の説明内容

【2012年3月期】

◆経営基本方針

◆損益実績

◆決算概要

◆実施施策

【2013年3月期】

◆経営基本方針

◆各事業の動向と事業戦略

◆ご参考資料

2012年3月期　経営基本方針

enplas

1．圧倒的な競争力による事業成長

2．3N（技術・市場・用途）戦略による
　　新事業創出

2012年3月期損益実績

（単位：億円）

	2012年3月期 実績	2011年3月期 実績	増減
売上高	207.2	209.8	△1.2%
原価率	64.7%	63.1%	1.6pt
営業利益	11.4	13.2	△13.5%
経常利益	12.5	12.4	1.4%
当期純利益	9.6	3.0	214.4%
包括利益	8.8	△2.8	—
1株当り当期純利益	65.77円	20.00円	45.77円
1株当り配当金（うち記念配当）	25.00円 （10.00円）	15.00円	10.00円

2012年3月期セグメント別 実績

enplas

（単位：億円）

	2012年3月期 実績	2011年3月期 実績	増減
エンプラ事業	113.4	119.9	△5.4%
売上原価率	73.0%	67.2%	5.8Pt
営業利益	0.9	6.4	△84.8%
半導体事業	52.5	49.2	6.7%
売上原価率	60.9%	58.1%	2.8Pt
営業利益	4.9	6.1	△20.0%
オプト事業	41.1	40.5	1.4%
売上原価率	46.5%	56.9%	△10.4Pt
営業利益	5.5	0.5	878.8%
売上合計	207.2	209.8	△1.2%

四半期実績推移

（単位：億円）

	2012年3月期 第4四半期	2012年3月期 第3四半期	2012年3月期 第2四半期	2012年3月期 第1四半期	2011年3月期 第4四半期
売　上　高	59.6	51.9	49.5	46.0	46.5
売上原価率	64.6%	63.3%	66.3%	64.5%	64.9%
営業利益	5.4	4.0	1.5	0.4	1.3
経常利益	6.4	4.2	1.4	0.4	1.2
当期純利益	11.8	0.0	1.8	△4.1	△0.0
1株当り当期純利益	83.69円	0.05円	12.57円	△26.89円	△0.13円

セグメント別 四半期実績推移

	第4四半期 実績	第3四半期 実績	第2四半期 実績	第1四半期 実績
エンプラ事業	30.9	25.8	29.5	27.0
売上原価率	77.3%	74.8%	70.4%	69.4%
営業利益	0.0	△0.0	0.9	0.0
半導体機器事業	13.8	14.1	12.5	12.0
売上原価率	61.3%	60.6%	62.9%	58.7%
営業利益	1.3	1.7	0.7	1.0
オプト事業	14.8	12.0	7.4	6.8
売上原価率	41.1%	41.9%	56.1%	55.8%
営業利益	3.9	2.3	△0.1	△0.6
売上合計	59.6	51.9	49.5	46.0

2012年3月期決算概要①

➢決算総括

◆売上、経常利益ともにほぼ前期並み（対前期比）

売上高△261百万円　経常利益＋１７百万円

上期売上高：下期売上高＝９５：１１１（億円）

◆エンプラ事業：売上高△6.5億円　営業利益△5.5億円

◆半導体事業　：売上高＋3.3億円　営業利益△1.2億円

◆オプト事業　：売上高＋0.5億円　営業利益＋4.9億円

◆主に設備投資の実行によるキャッシュフロー残高の減少△12億円

2012年3月期決算概要②

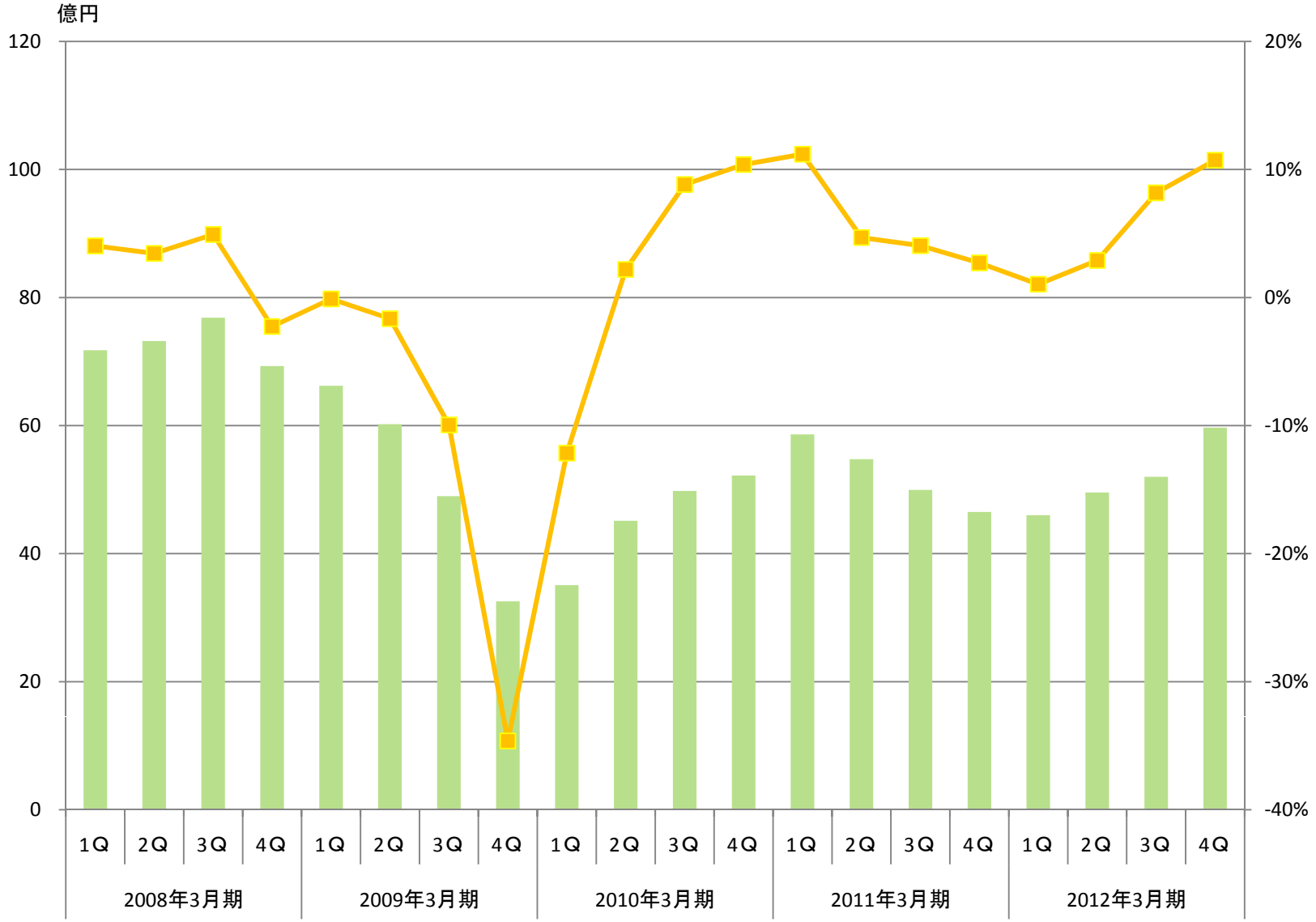
➢主な特別損失

◆タイ洪水関係の災害損失　４２７百万円
◆投資有価証券評価損　１６１百万円
◆国内生産体制の再構築費用等　１５０百万円
◆川口事業所の一部解体撤去等費用　７７百万円

➢主な特別利益

◆タイ洪水被害に関する受取保険金　745百万円
◆委託契約解除益　101百万円

参考 -四半期売上高/売上高経常利益率実績推移-



2012年3月期実施施策

enplas

―厳しい経営環境―

東日本大震災、原発問題、計画停電
自動車メーカーを中心としたサプライチェーンの混乱

欧州債務危機を背景とした円高の進行

タイ洪水による当社タイ工場被災

→ 市場の危機を好機と捉え、成長投資を加速

成長戦略

◆LED-TV関連製品の市場開拓
◆タイ洪水被害直後の新工場の垂直立ち上げ（被災から3ヶ月）
◆インドネシア現地法人設立と新工場立ち上げ
◆上海金型・成形新工場の稼動開始

効率化

◆国内生産体制再構築　株式会社エンプラス精機の解散→鹿沼工場へ集約
◆川口事業所の一部解体・撤去

2012年3月期実施施策

資本政策

◆株主価値向上を目的とした自己株式の市場買付
2012年3月期の取得株式数：1,249,600株
発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：8.88％
・取得期間：平成23年８月１日～平成２３年１０月３１日

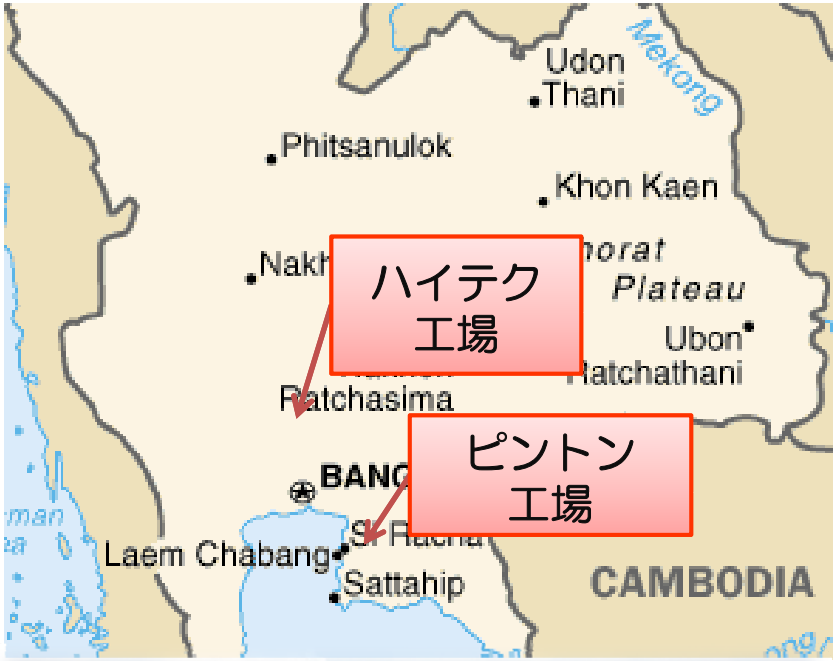
◆会社設立50周年記念配当：期末　１株当り10円
（通期　１株当り25円）

タイ洪水被害に対する緊急対策

2011年10月15日　ハイテク工場浸水後、即座に下記を決定
1．新工場の立ち上げ
2．グローバル全拠点での代替生産

2011年12月末
洪水リスクの小さいピントン工業団地に新工場を垂直立ち上げ

2012年3月初旬
既存工場とほぼ同程度の生産能力を確保



2013年3月期経営戦略

2013年3月期環境認識

enplas

外部環境認識

① 世界経済は不安定な経済環境が継続
② 円高ドル安により、お客様の生産拠点の海外移管が加速
③ 耐久消費財市場の成長の中心が東南アジア・中国へシフト

■先行投資した事業・拠点（LED-TV・金型・東南アジア関連）での投資回収の徹底
■機能本部制から事業本部制へ
■液晶業界におけるLED関連製品の確固たる地位の確立
■エンプラ事業の強化
　成長するアジア・中国での積極受注及び非日系顧客獲得
⇒市場の中心であるアジアから事業判断を行う体制への変革

2013年3月期　経営基本方針

◆経営基盤の強化

事業基盤

■顧客基盤:　お客様の信頼（密着、提案）

■ものづくり基盤：

国内生産体制の整備と海外の原価低減継続
金型はスピード競争力強化

■創造基盤（新製品・新技術を生み出す底力）

■品質基盤:　グローバル品質保証体制の強化

財務基盤

（過去の投資を徹底的に回収し、財務基盤を回復）

EDD(エンプラス・ディスプレイ・デバイス) 設立

enplas

◆液晶TVバックライト用のレンズ事業を主力とするEDDを設立

【2012年4月2日設立】

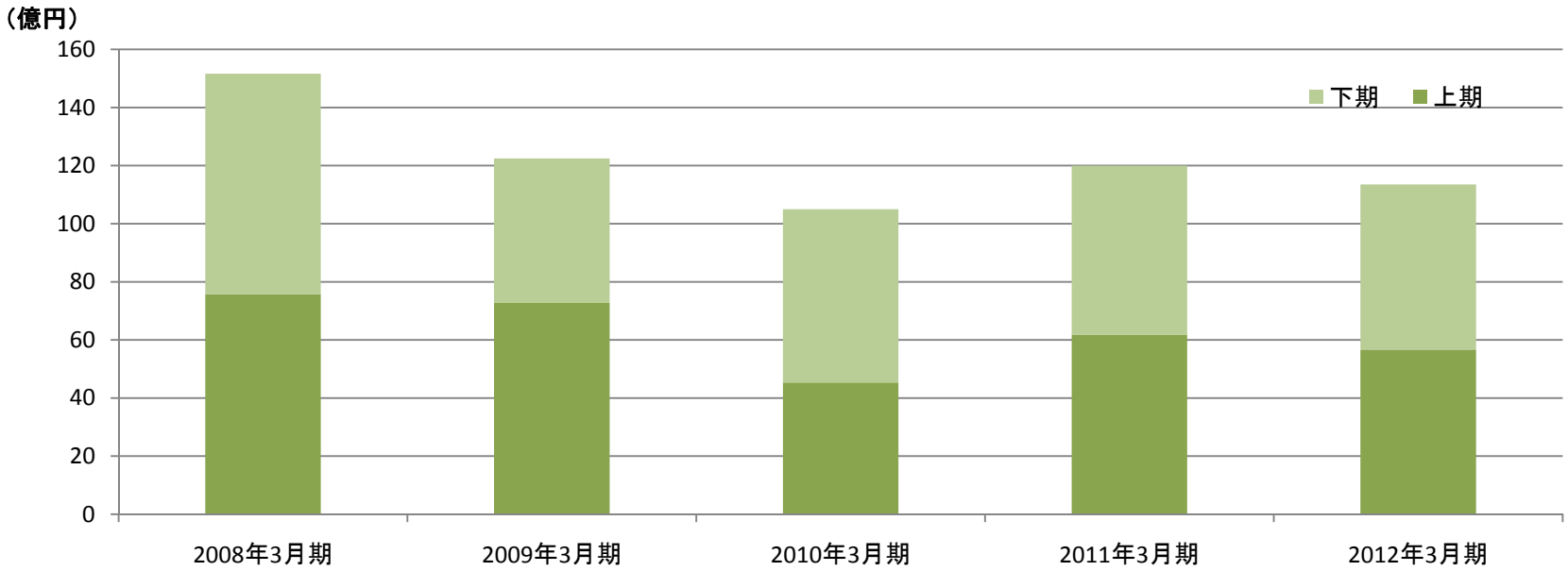
EDD設立目的

1．意思決定の迅速化
2．開発・生産立ち上げプロセスの短縮化
3．ビジネスユニット別の損益管理の徹底

→ 持続的成長が可能な会社へ

各事業の動向と事業戦略

エンプラ事業の動向



２０１３年3月期

売上計画：１２０億円

（２０１２年３月期　通期売上実績１１３億円）

エンプラ事業戦略

enplas

◆市場動向

OA　：欧州の景気減速の影響、円高により、部品の現地化・ドル調達が加速し国内部品供給量減少

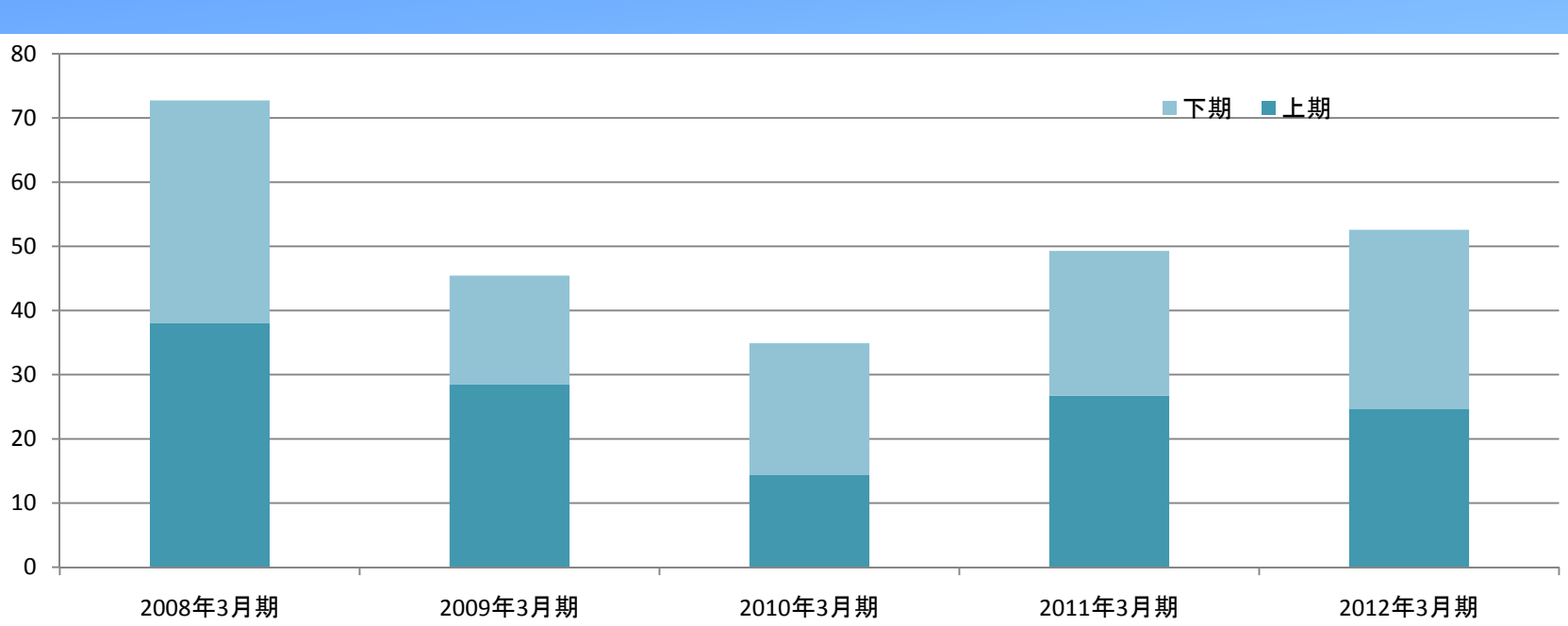
自動車：世界販売台数は成長するが、部品の海外調達化が進む。

二輪　：販売台数は増加するが、FI化が進行

事業戦略
・成長市場アジアにおける非日系顧客への拡販
・新戦略製品の創出

◆アジアからスピーディーな事業判断を行う体制へ変革

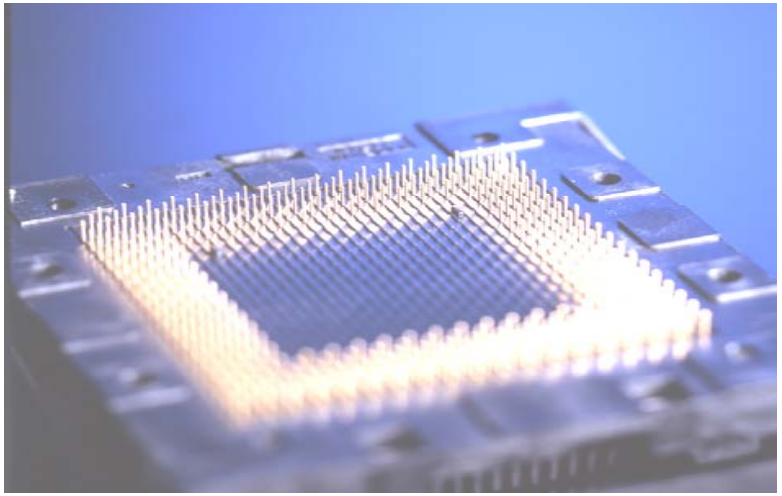
半導体機器事業の動向



２０１３年3月期

売上計画： 54億円

（２０１２年３月期　通期売上実績52億円）



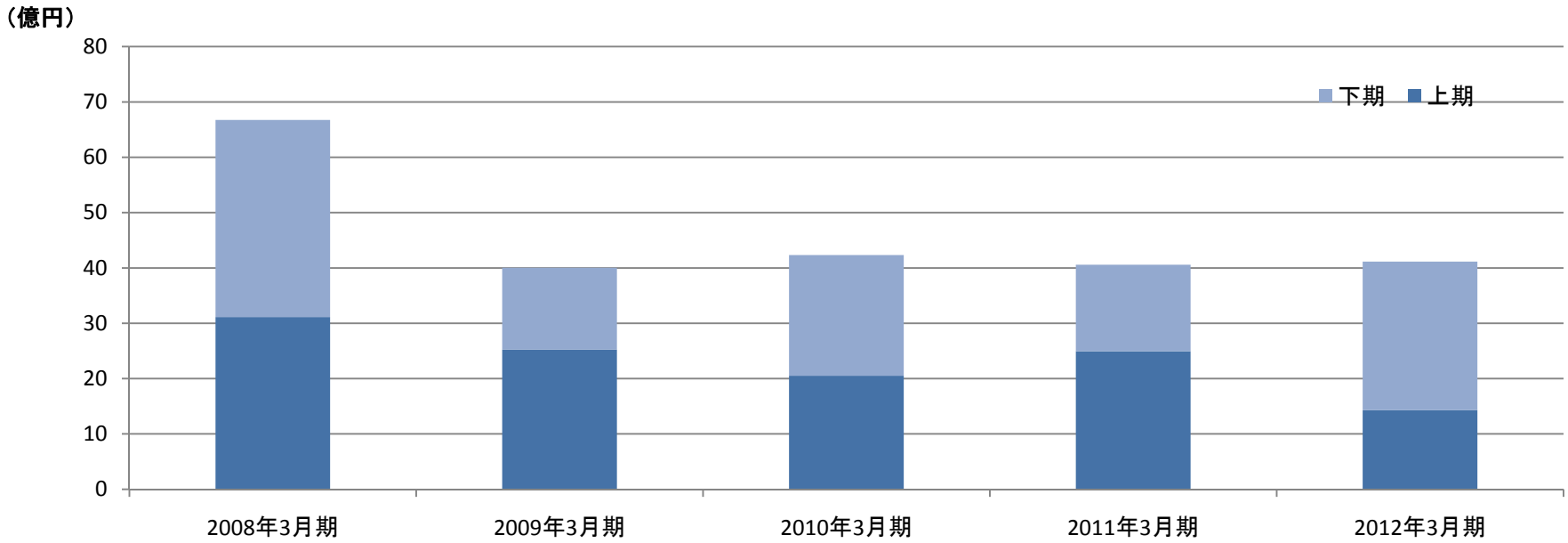
半導体機器事業戦略

◆市場動向
自動車向け半導体市場は着実な成長を遂げており、
バーンイン市場には追い風

事業戦略
・新規開発製品の市場投入
・海外調達・海外生産の加速によるコスト競争力強化
・グローバル顧客サポート・グローバル経営体制の更なる推進

◆製品、サービスでの競争力向上により、業界シェア向上を目指す

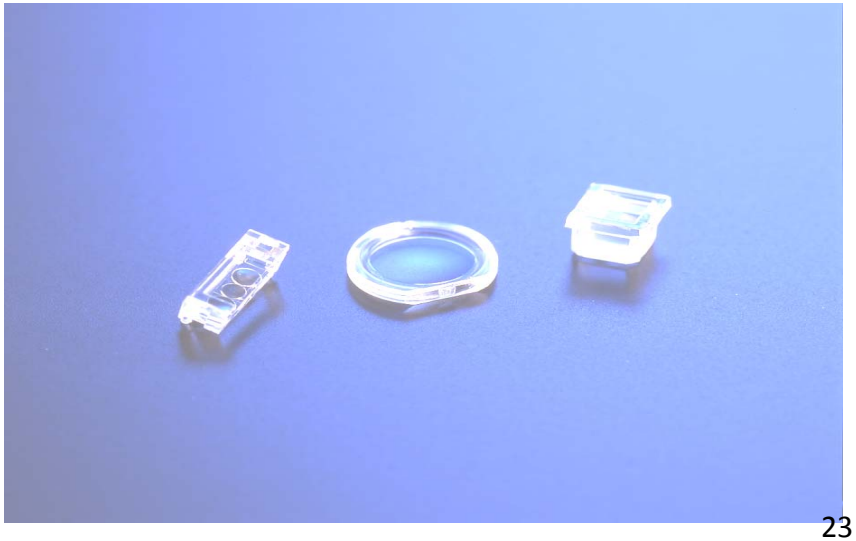
オプト事業の動向



２０１３年3月期

売上計画： 66億円

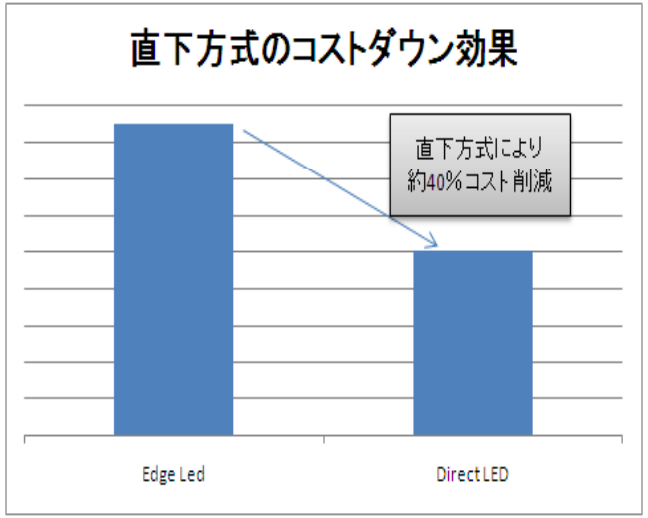
（２０１２年３月期　通期売上実績４１億円）



オプト事業戦略

LED-ＴＶビジネス

◆市場動向
・液晶ＴＶメーカーの採算が悪化し、
低コストのＴＶ開発に力を入れている。
・ＣＣＦＬからＬＥＤ化への進行加速

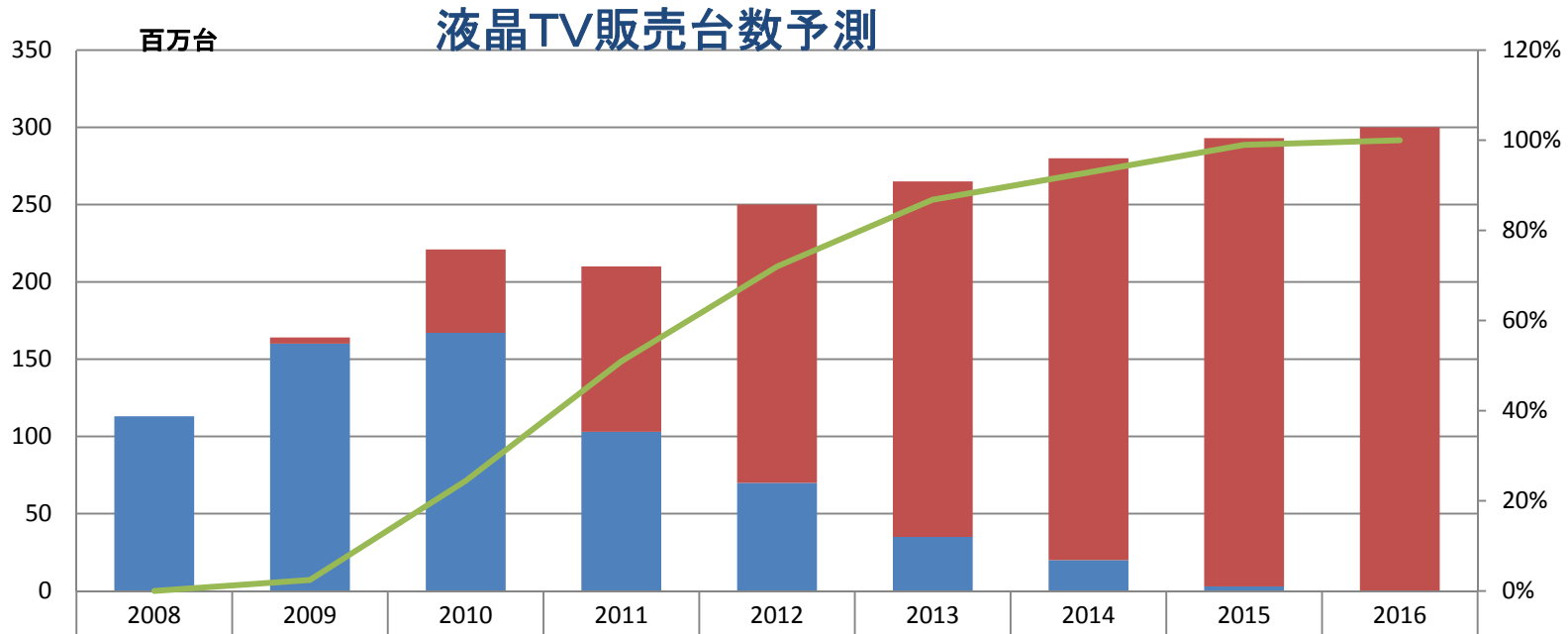


事業戦略
・模倣品対策
・新規顧客の開拓
・製造原価の低減
・新製品の上市

エッジタイプから当社拡散レンズ使用の直下方式に切り替えることで、バックライトコストが40%削減

◆ディスプレイ業界における確固たる地位の確立

LED-TVビジネスの動向（捕捉）



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
LCD-TV(LED)	0	4	54	107	180	230	260	290	300
LCD-TV（CCFL）	113	160	167	103	70	35	20	3	0
普及率	0%	2%	24%	51%	72%	87%	93%	99%	100%

（当社予測）

◆2012年には液晶TVの約70%がLED-TVと予測、LED化比率が高まる
◆原価低減要求が強い液晶TV市場の多くで直下方式を採用
◆今期LED-TV関連製品の更なる拡販
◆次世代製品投入による差別化

その他のオプト事業

ビジネスユニット	事業戦略
光ピックアップ	新規製品開発強化 新規顧客獲得
光通信	新市場、新製品の企画・開発
LED関連 新アプリケーション	タイムリーな新製品 開発による事業立ち上げ

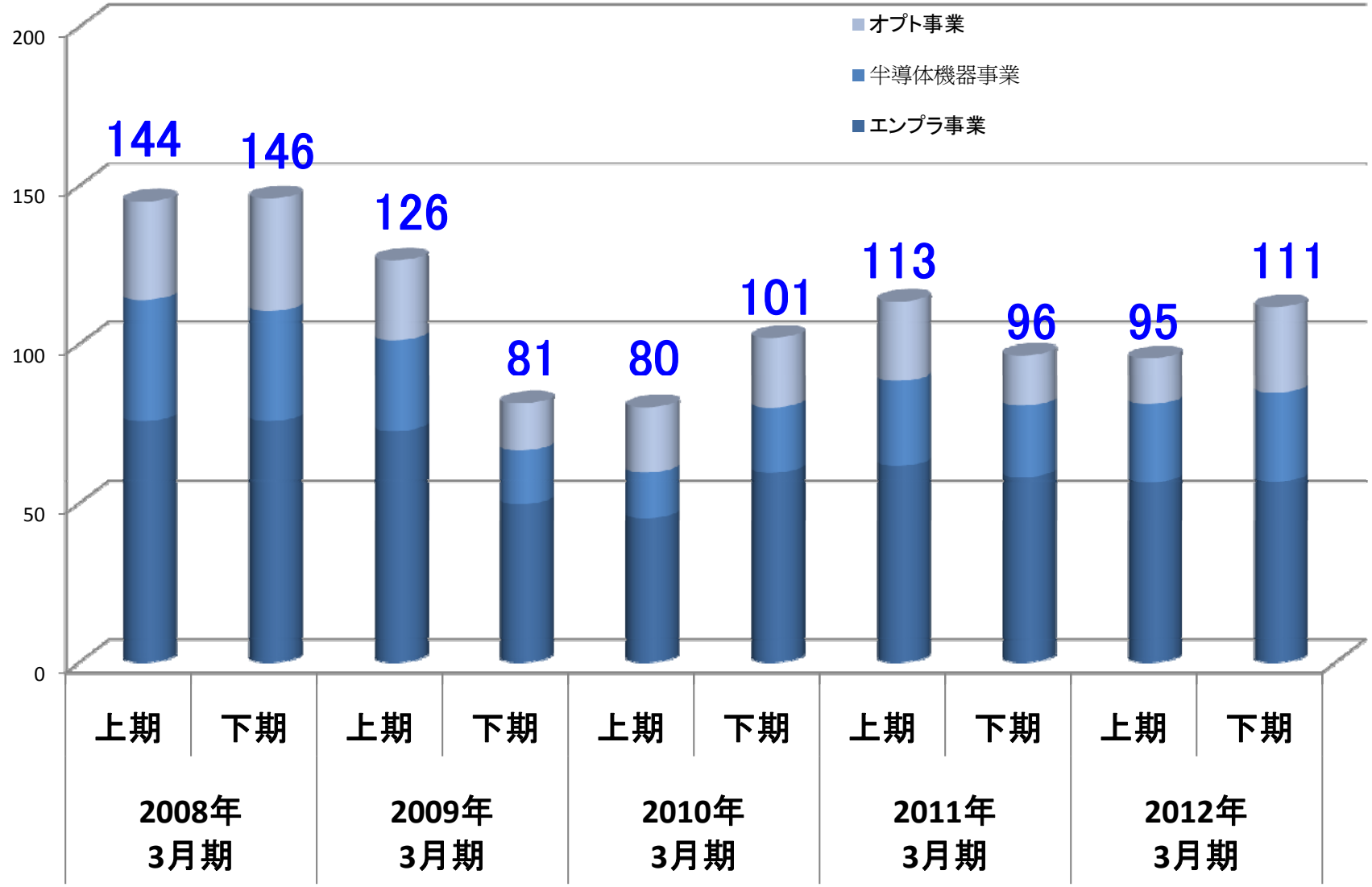
2013年3月期業績予想

	2013年3月期 予想	2012年3月期 実績
売上高	240.0	207.2
原価率	62.9%	64.7%
営業利益	23.0	11.4
経常利益	24.0	12.5
当期純利益	19.0	9.6
1株当り当期純利益	135.02円	65.77円
1株当り配当金（うち記念配当）	25.00円	25.00円 （10.00円）

ご参考資料

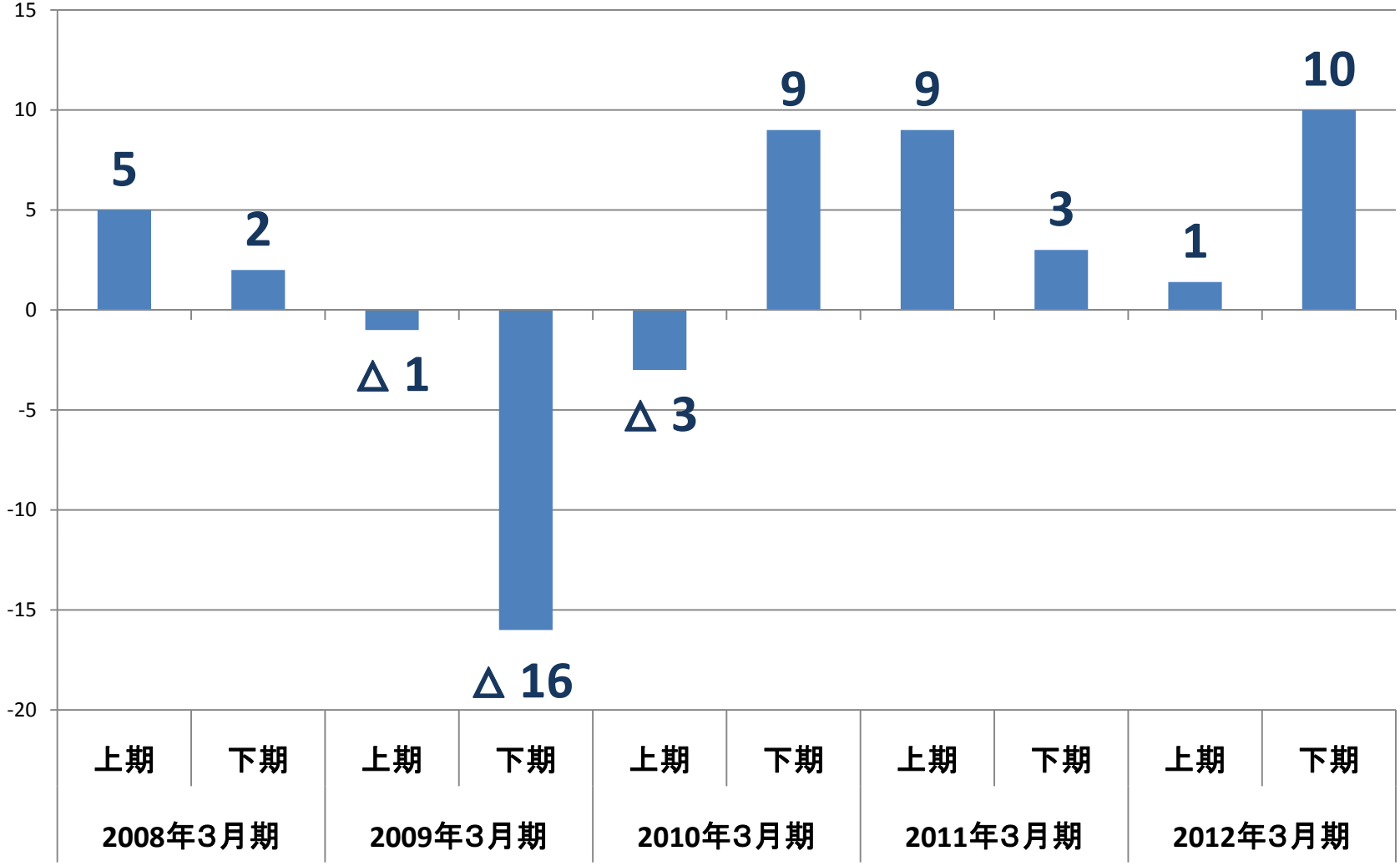
参考 -売上高実績推移-

（単位：億円）

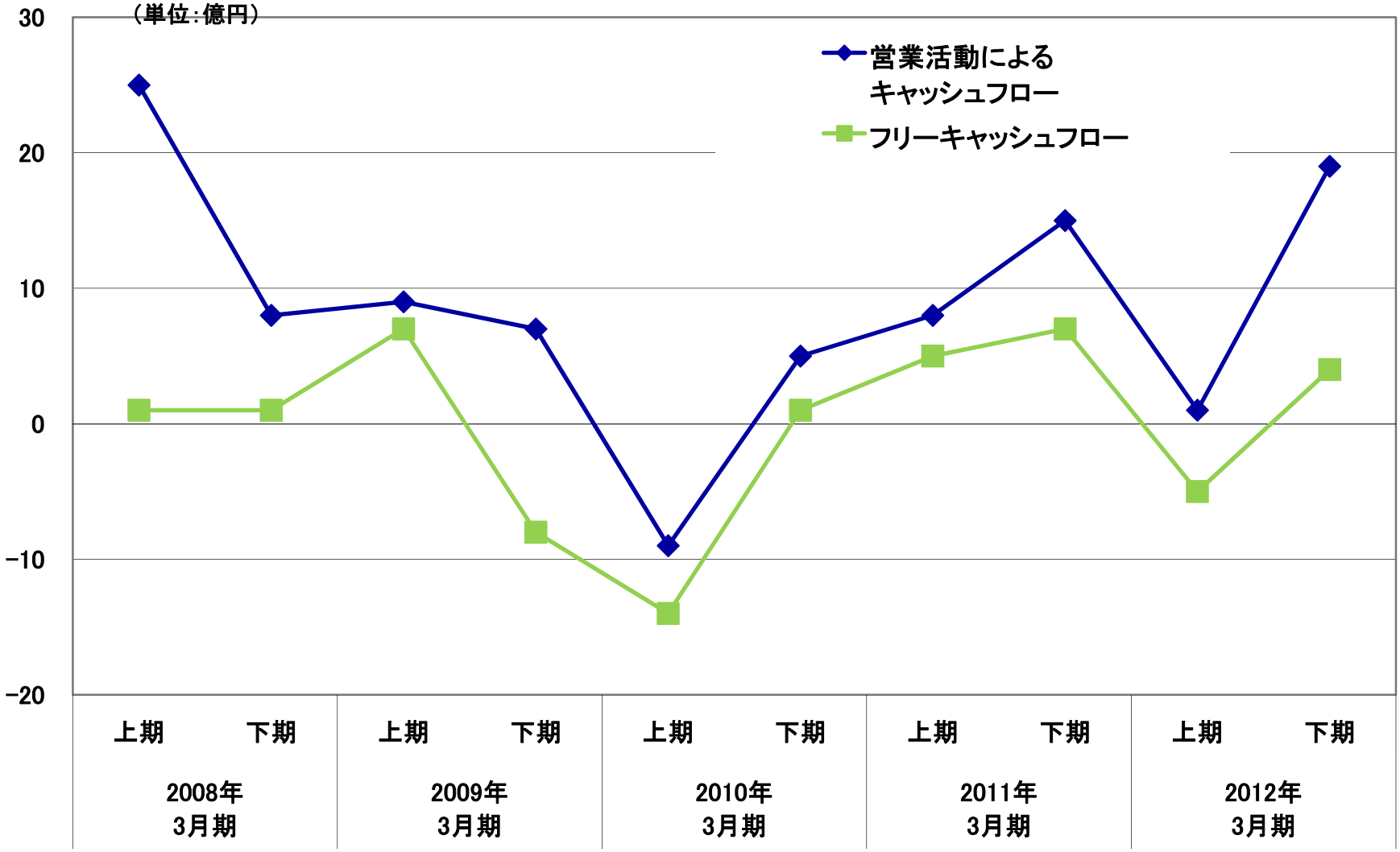


参考 –経常利益実績推移–

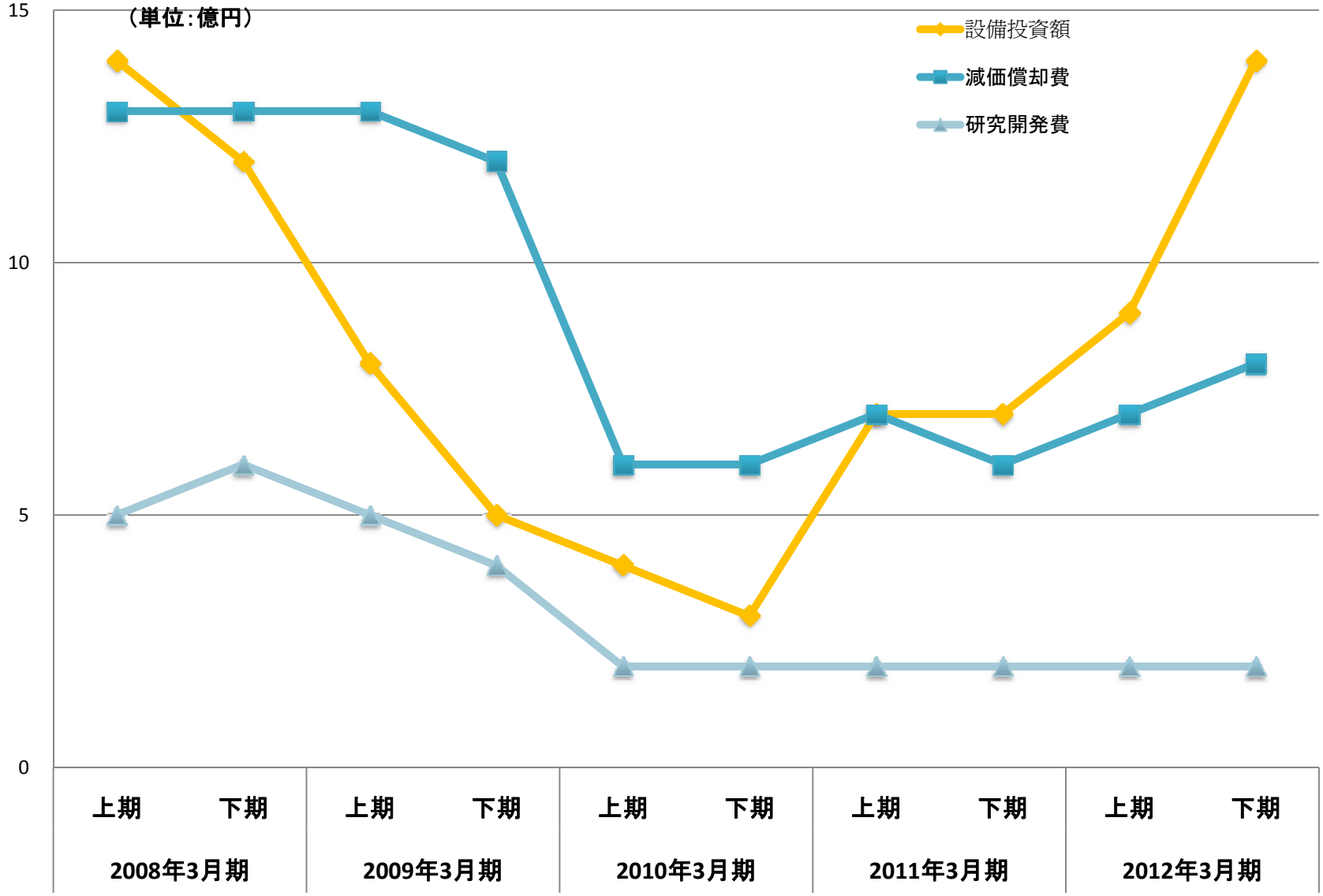
（単位：億円）



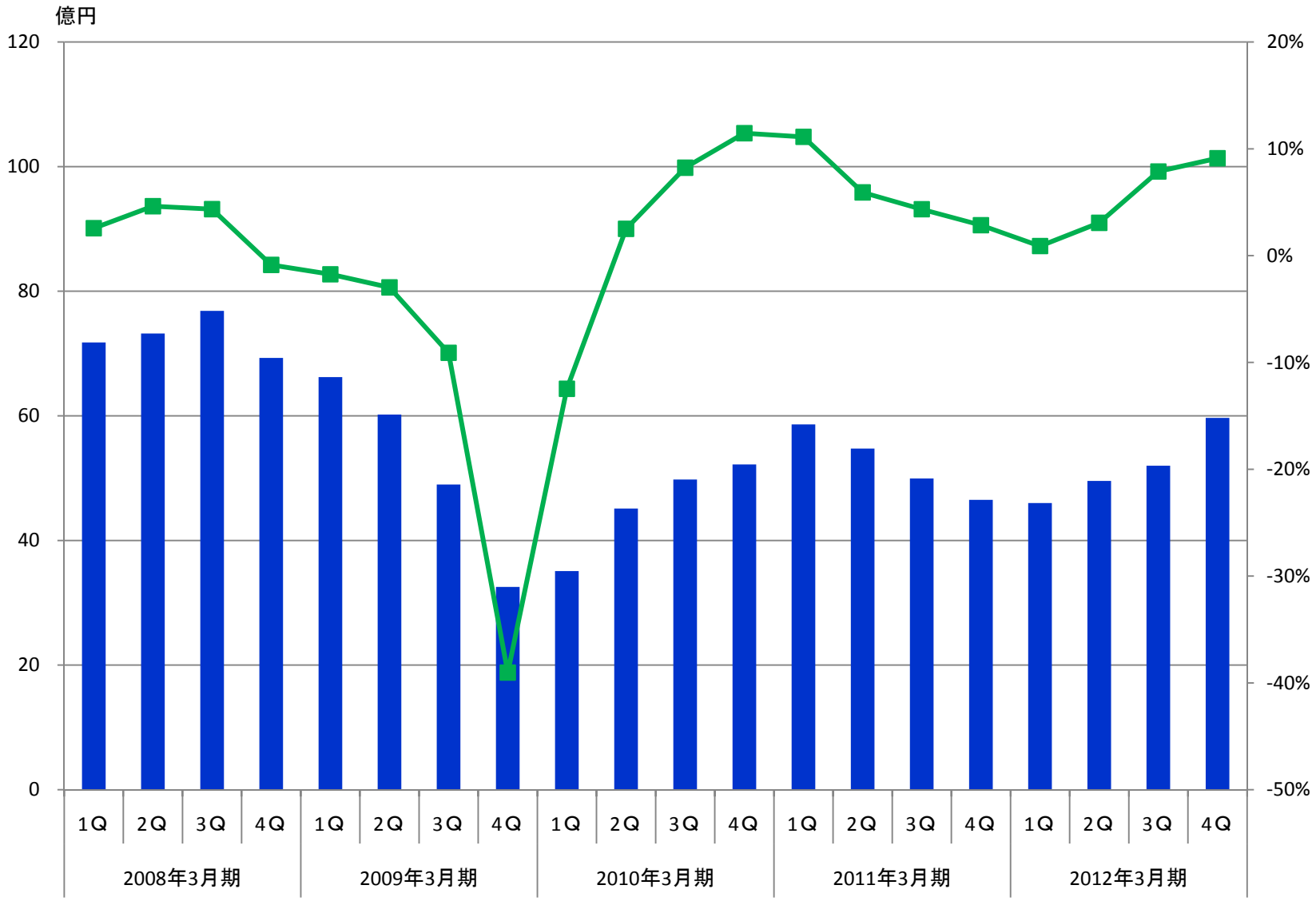
参考 -キャッシュフロー推移-



参考 –設備投資額・減価償却費・研究開発費推移–



参考 ー売上高/売上高営業利益率四半期実績推移ー



ご清聴ありがとうございました。

株式会社エンプラス